



タツノオトシゴはどうやって飼うの

簡単には飼えない

タツノオトシゴは、海そうのしげった海でくらししている魚です。ですから、キングョを飼うのとはちがって、いつも新鮮な海の水が流れていて、海水のこさが、ほとんど変わらないようにしなければなりません。タツノオトシゴは、ちょっとした海水成分の変化で、病気にかかりやすく、死ぬことがあります。

水をきれいにする装置が、必ず必要

できるだけ大型の水そうを用意します。水がくさらないように、タツノオトシゴのふんや、えさの食べ残しなどのたんぱく質を、きれいにこしとる装置が、必ず必要です。海水魚をあつかっている店で、水そうの大きさに合わせて「ろ過装置」を用意します。

ときどき、新しい海水に取りかえますが、このとき、水そうの水の温度や、水質が変わらないように注意します。水温は、24～25℃にします。

えさは、生きたものが必要

生きたブラインシュリンプ、アミ、グッピーの子どもなどを、1日に2～3回あたえます。自然では、たえず、プランクトンを食べているので、できるだけ同じようにしてやりましょう。（監修・安部 義孝）

